

講師 カレル・フィアラ(福井県文書館古典文学顧問)

古代文学では、和歌は最小の独立した作品ですが、より大きな作品である記紀、日記、物語等の中で出現することが多くあります。

この講座では、具体的な作品中の和歌の位置づけと意味について考察します。

平成29年 5月28日 | 日 | 13:30~15:00

## 1 『古事記』の歌と『日本書紀』の歌

平成29年 6月24日 | 土 | 13:30~15:00

## 2 万葉歌と現存しない日記・歌集の名残

平成29年 7月22日 | 土 | 13:30~15:00

## 3 『伊勢物語』の構造と背景

平成29年 8月5日 | 土 | 13:30~15:00

## 4 『土佐日記』『蜻蛉日記』『和泉式部日記』の歌

平成29年 9月23日 | 土 | 13:30~15:00

## 5 『源氏物語』の歌とその他の紫式部の歌

会場は、すべて福井県文書館研修室 (受講無料)

\*各定員 40 名。電話、Fax、メール等で事前に申し込んでください。



『源氏絵』1852年 国立国会図書館Webサイトより

フィアラ先生の  
ゼミナール  
古典文学

「記紀」  
「日記」  
「物語」

における和歌